

《銀賞》

私の心強いヒーロー

※さいたま市立片柳中学校

一年 中 村 寧 乃

私は毎日、自転車で学校に通っています。楽しいと思うかと思いますが、私は嫌なことが一つあります。ヘルメットです。安全のためにとは分かっているのですが、どうも好きになれません。あんなヘルメットをかぶると髪の毛も乱れてしまうし、一番に見た目がかっこう悪いからです。何であんな「ダサヘルメット」をかぶらないといけないのかと思っていました。

自転車で乗っていつも通り登校していたときのことです。前カゴにたくさん荷物を置いていたので私はバランスをくずし、たおれてしまいました。そのとき、頭からたおれたので、

「あっー頭ぶつける！大変だ！」

と思いました。しかし私の頭は無事でした。あの、ダサヘルメットが守ってくれたのです。そのとき、私は初めてヘルメットがどんなに大切かが分かりました。かぶると頭でつかちになるし、かぶると髪が乱れる、嫌なことばかりでした。しかし、今日初めて私を守ってくれました。もしもヘルメットをかぶっていなかったら……。私はどうなっていたでしょう。頭を強く打って気を失っていたかもしれません。今はとても感謝しています。ありがとうございます。ありがとう……。ありがとう……。

私は「絶対に事故にあわない！」「転ばない！」と思っています

した。しかし、事故はいつ、どこで、誰に起こるか分かりません。ありふれた言葉ですが、本当にその通りだと思いました。やってしまったからではもう遅いです。けがをしてからではもう遅いです。だから、自転車の運転には気をつけてください。自転車だけではありません。自動車の事故もです。もちろん歩くときには周りに気をつけて、周りを見ながら歩いてください。

「ダサヘルメット」などと言ってしまったこと、あやまりたいです。ごめんなさい。これからは、ちゃんとかぶって自分の体を大切に事故にあわないようにしたいです。そして、ヘルメットは私の命を守ってくれたヒーローです。

学校が休みの日、私は久しぶりにあのヘルメットをかぶらずに自転車で乗りました。なぜか、ちよっぴりさみしかったのです。

このことを友達に話しました。すると、
「あんなダサイのかぶらないほうがいいよ！」

と友達は笑いながら言いました。少し傷つきました。それよりも私は、早くこのヘルメットの良さに気づいてほしい、ダサくたって人の命を守ってくれるヒーローなんだよ、と教えてあげたかったです。

毎日の登校に自分を守ってくれるヒーローがいたら心強いと思いませんか？

